

CX週間展望(11月15日~)

# 週間展望(11/15~11/21)

~ WEEKLY FORECAST ~

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(11/15~11/21)

### ~ドル円~

調査課

菊川 弘之



## 週間展望(11/15～11/21)

～ドル円～

調査課

菊川 弘之

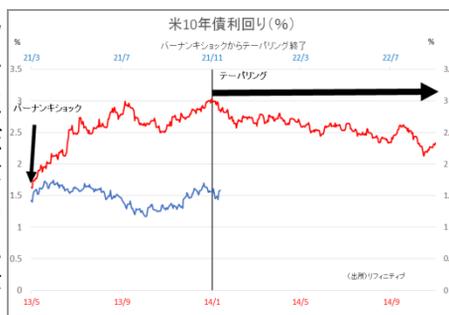


### 【今週見通し・戦略】

115円抜け切れず

FOMC人事と、原油高抑制政策と、エネルギー価格を受けた米金利動向が注目

- 心理的節目115円を上抜けず、ネックライン(10月28日安値: 緑点線)を割り込んで、下げ加速、下値目標値のN=112.9ドルを達成した。ただし、米CPIが31年ぶりの大幅な伸びを記録し、インフレ懸念が再燃し、9月円安値～10月高値までの上昇に対する38.2%押し(112.5円)が下値支持となり、急伸となった。
- HORY-GRAILの買いパターンの条件だった114.05円(赤点線)を超えたものの、ADXは条件の30を割り込み、買いパターンとならず、10月高値を起点の下降トレンドに上値が抑えられている。115円の上値抵抗感は継続しており、同水準を上抜くまでは、112円～115円の狭いレンジ相場が継続見通し。一方、115円を上抜いてくると、118円～120円が視野に入る。
- バイデン大統領は、感謝祭までに、パウエルFRB議長を続投させるか、新たな議長候補を指名するか決定を下す方針と報じられている。FRB当局者による金融取引が批判される中、民主党のウォーレン議員は、パウエル氏再任に強く異議を唱えている。
- バイデン大統領が牽制しているガソリン高抑制政策の行方にも注意。インフレの行方が金利に影響を与える。また、今週は、米FRB関係者の発言予定が相次ぎ、出口戦略・インフレに対する思惑で左右されそう。



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(11/15～11/21)

### ～ 貴金属市場 (金：GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



#### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「テーパリング開始が金上昇の号砲となる可能性」と予想したが、強気の雇用統計を受けても、金利は上昇せず、今回も金利反落・金上昇パターンとなっている。年末年始にかけて、米債券需給は好転(金利低下・債券高)していくことを考慮すると、インフレ懸念が急速に高まらなければ、金は堅調推移を続けるだろう。(～中略)。

#### 上値抵抗をブレイク

- NY金がJPX金に続いて200日移動平均線や52週移動平均線を上抜いてきた。2020年8月高値を起点とした下降トレンドを上抜くか否かが焦点に。同水準を明確に上抜いてくると、中長期の強気感が増してくる。≫としたが、先週のNY金(12月限)は、米消費者物価指数(CPI)の伸び加速によるインフレ懸念を受けて、8月高値を起点とした下降トレンドや、7月以降の上値抵抗だった1850ドル水準を上抜いて上げ加速となった。
- 先週末のNY金(12月限)は、7日続伸。短期的な買われ過ぎ感もあり、一時1850ドル割れとなったが、11月のミシガン大学消費者信頼感指数・速報値が予想を大きく下回る弱い数字となり、ドル安となったのをきっかけにジリ高となった。中盤から終盤にかけて、週末を前にした利食い売りが上値圧迫要因となったが、11月の米消費者態度指数(速報値)で、1年先の予想インフレ率が4.9%と13年ぶりの高さになり、インフレヘッジ(回避)の金買いから堅調で引けた。

- CFTC建玉明細(11/9現在)は、ベテランズデーに伴い15日(月)に延期。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(11/15~11/21)

### ~ 貴金属市場 (金: GOLD) ~

調査課

菊川 弘之



#### 【今週見通し・戦略】

- 内外共に2020年高値を起点とした下降トレンドを上抜き、中長期トレンドは上昇に転じてきた。今後、臨時増し証拠金や証拠金引き上げ措置などで、一時的に、利食いの動き・踏み上げ等が出て、押し目買い基調に変化はない。
- コロナ対応の大規模な財政出動は一巡し、今後3カ月間(11月~2022年1月)の国債発行額は減少計画。FRBがテーパリングを開始したことで、年末年始にかけて、米債券需給は、好転(金利低下・債券高)していくことが予想される。
- インフレ懸念が急速に高まらなければ、金は自己相似形(フラクタル)の強い堅調推移を続けるだろう。米主要株価指数は軒並み、史上最高値を更新中だが、インフレ圧力の高まりがFRBの想定通り、落ち着きを見せてくるようなら、緩やかな利上げに向けて、ゴルディロックス(適温相場)が続き、「債券上昇・金利下落」⇒「株買い・金買い」シナリオが想定される。
- 一方、FRBの想定以上にインフレが進行・もしくはインフレ懸念が高まりを見せた場合、利上げの前倒し懸念からの「金利上昇・債券下落」が予想される。エネルギー価格上昇により、スタグフレーション(物価上昇と景気停滞)に陥るリスクが警戒され始めると、「悪い金利上昇」からの「株価下落、金の強い上昇シナリオ」も浮上してくるだろう。
- それらを見極めるうえでも、原油価格動向に注目したい。11月29日に再開するイラン核合意の再建に向けた当事国会合で、合意への道筋ができなければ原油急伸もあり得る。ラニーニャ現象による厳冬警戒も強い。
- 今週は、米FRB関係者の発言予定も相次ぎ、出口戦略に対する思惑に伴う金利動向にも注意したい。

インフレ動向が  
今後の焦点に

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(11/15~11/21)

### ~ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ~

調査課

菊川 弘之



#### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「NY白金(1月限)は、ダブルトップ形成中。ネックライン(10月29日安値)を割り込むと、ダブルトップ完成となる。その場合の下値目標は、一目均衡表からは、N=994.6ドル、V=940.2ドル、E=929.6ドルなどがカウント可能。
- ボリンジャーバンドで「JPX白金一金」の鞘は、一旦、21MAを上抜いたが、戻りはすかさず売り叩かれた。再度、21MAを割り込み、「金買い・白金売り」トレンドが開始。%Bは横ばっており、+2σ~-2σ間の逆張りの時間帯。今後、バンドが収斂してから、%Bのクロスを伴い、上なり下なりに放れた場合は、順張りが優勢となる。それまでは、逆張り対処が賢明。》としたが、先週のNY白金(1月限)は、インフレ懸念を背景に金主導で堅調となった。9月安値~10月高値までの上昇に対する38.2%押しと重なるネックライン(10/29安値)を維持し、9月安値を起点とした上昇チャネルを形成中。米インフラ投資法案可決は強材料だが、欧州の新型コロナウイルスの新規感染者増加が懸念要因となった。
- 「JPX白金一金」の鞘は、21MAを割り込み、「金買い・白金売り」トレンドが継続となっている。
- 先週末のNY白金(1月限)は、小反落。時間外取引では、金、銀の反落につれ安となり、2けた安となり、一時1070ドルに接近した。日中取引は、金、銀が反発に転じたことから戻り歩調となったが、1100ドルが抵抗線となり、利食い売りが圧迫要因となり、小安く引けた。
- CFTC建玉明細(11/9現在)は、ベテランズデーに伴い15日(月)に延期。

9月安値を起点とした  
上昇チャネル形成中

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(11/15~11/21)

## ~ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- NY白金(1月限)は、9月安値を起点とした上昇チャネル形成中。心理的節目1100ドルに上値を抑えられているものの、価格帯別出来高も薄く、強い抵抗ではない。
- JPX白金標準先物も、9月安値を起点に上昇トレンド形成中。心理的節目4000円が上値抵抗として意識されている。同水準は7月にも抵抗として機能した。



COP26「脱石炭」法的拘束力なし

- 9月安値を中心とした左右相似形を形成しており、フラクタルな状況が継続するならば、6月~7月に保合ったような流れとなる。次に変化が起こりやすい基本数値・対等数値の時間帯は、11月22日の週に集中する。「金・白金」の鞘は、金買い・白金売りの状態だが、逆張り圏の動き。
- 第26回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP26)で、石炭火力を2040年代までに廃止するという共同声明に46ヶ国が署名し、2040年までに新車販売をすべてゼロエミッション車にするという共同声明に20ヶ国が署名したが、どちらも法的拘束力はなく、日本は参加せず。COP26は、12日までとなっていた会期を延長し、13日も交渉を続ける。石炭の扱いなどを巡る議論が紛糾している。
- 環境問題から電気自動車(EV)への移行が進む見通しであることは、白金系貴金属の自動車触媒需要減少要因だが、米中間選挙・大統領選挙の結果次第で、米国の姿勢が急変するリスクも残っている。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。



## 週間展望(11/15~11/21)

### ~ 穀物市場 (大豆・コーン) ~

調査課

菊川 弘之



#### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「南米産の生育進捗動向に加えて、9日の米農務省需給報告が注目。新穀年度の生産高、イールド(単収)が上方修正されるとの観測もあり、弱気報告を織り込む動きが先行しそう。需給報告前に弱気の織り込みが進めば、「知ったら終い」となる可能性も。原油市場の調整が一服するか否かにも注目」としたが、先週のシカゴ穀物は、米農務省(USDA)需給報告で、大豆イールド予測が予想外の下方修正となったことで生産量予測が下方修正されたことや、コーンも、事前の需給緩和観測に反し、エタノール生産用としての需要増加を受けて、需給が引き締まる可能性が示され、下値を切り上げた。
- 先週末のシカゴ大豆(1月限)は、大幅続伸。米農務省がデイリーで大口成約を発表したことを受けて価格下落時の需要増加期待が高まったことに加え、プロテイン含有率が高い飼料への需要拡大期待から大豆粕価格が上昇したことが買いを支援した。
- シカゴコーン(12月限)は、反発。大豆の堅調な足取りに追随。弱気なミシガン大学消費者信頼感指数を受けて一時的にドル売りの動きが強まったことも一因。ただ、週間純輸出成約高は前週を下回ったことや、NY原油の軟調な足取りが重石となったため、大豆に比べると上げ幅は限られた。
- 週間純輸出成約高(10月28日までの週)
  - 大豆: 186万3900トン(事前予想レンジ: 120万~250万トン)
  - コーン: 122万3800トン(事前予想レンジ: 70~140万トン)
- 大豆は12ドル、コーンは550¢を回復。強気の需給報告で、ハーベストローは確認された格好。今後は、南米産の生産動向と、中国の駆け込み輸入が材料視される可能性。15日の米中首脳会談で、米国産穀物の追加輸入が出てくれば上値試しとなりそう。

#### 【今週見通し・戦略】

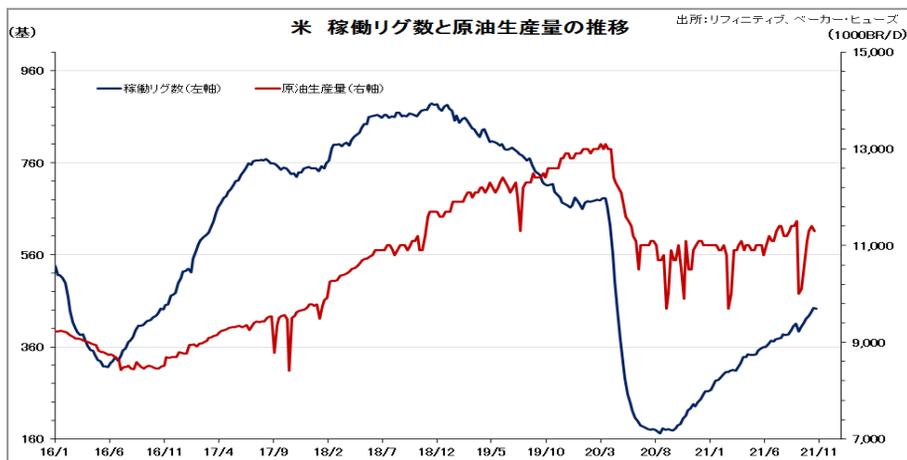
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(11/15~11/21)

## ~ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之



### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「原油市場の大口投機玉の買い越し水準は、過去のピークと比べると、過熱感の低い状態。米主要株価指数が史上最高値を更新する中、ラニーニャ現象による北半球の厳冬が実現すると、需給タイト感が再浮上する可能性もある」としたが、先週は、1兆ドル規模のインフラ投資法案が米下院で可決した事に加え、米国が8日から外国人旅行者に対し、新型コロナウイルスのワクチン接種証明の提示があれば入国できるようにした事を好感して85ドルへの戻りを試したものの、米エネルギー情報局(EIA)月報で、米国の原油生産見通しが上方修正されたことや、米エネルギー情報局(EIA)週間統計で原油在庫が増えた事に加え、石油輸出国機構(OPEC)月報で需要見通しが下方修正された事で、戻りを売られた。
- 米政権がガソリン高対策で大規模な戦略備蓄の放出に動くとの観測も相場の重荷となった。バイデン米大統領は「インフレ反転が最優先事項」とし、エネルギー高を抑制するため、米国家経済会議(NEC)に指示した。

### 戦略備蓄放出も

- 先週末のNY原油(12月限)は、反落。11月のシカゴ大学消費者信頼感・速報値が予想を大きく下回る弱い数字となり、米景気に対する先行き警戒感が強まった。バイデン米政権は足元のガソリン高を抑える目的で、一時的な輸出停止や原油備蓄の大規模な放出を検討中との観測や、原油需要が年末にかけて伸び悩むとの見方が売りを誘った。
- 米ベーカー・フーズによると、米国内の稼働中の原油掘削装置(リグ)数は454基で前週比4基増。
- CFTC建玉明細(11/9現在)は、ベテランズデーに伴い15日(月)に延期。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

CX週間展望(11月15日~)

## 週間展望(11/15~11/21)

### ~ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之



#### 【今週見通し・戦略】

■ NY原油(12月限)は、価格帯別出来高の厚い82~85ドル水準が上値抵抗。ネックライン(11/4安値:78.25ドル)を割り込むと、一時的に売り圧力が高まる可能性はあるものの、8月安値~10月高値までの上昇に対する38.2%押し(76.1ドル)水準や心理的節目75ドル近辺では、押し目を買い直される可能性。

■ 今年の6月~8月にかけても、ダブルトップ完成から、テクニカル的な売り圧力を受けて付けた安値が、結局はその後の上昇トレンドにおける買い場となった。

#### 安値売込みは避けたい

■ 戦略備蓄放出や一時的な禁輸措置などで、ネックライン割れからテクニカル的な売り圧力が高まっても、ラニーニョに伴う厳冬予想や、11月29日に再開するイラン核合意の再建に向けた当事国会合では、容易に交渉がまとまる可能性は低く、安値売込みは避けたい。デイトレードを含む短期売買は別にして、崩れた場合は、チャートパターンでの底打ち確認後、買い場探しとしたい。

■ 米海軍第5艦隊(バレーンに司令部)は、バレーン、イスラエル、アラブ首長国連邦(UAE)とともに10日から紅海で4か国合同軍事演習を実施中。イエメンの親イラン民兵組織フーシ派や、29日に再開される予定のイラン核合意の協議再開を前にして、イランを牽制する意味合いがあるとされるが、強硬派のライシ政権が脅されて屈する姿勢は採らないだろう。中国との長期契約で、イラン輸出は増加傾向を辿っている。

■ 北京オリンピック前に、15日に開催予定の米中首脳会談(オンライン)で、貿易問題等で中国の妥協が出る可能性はあるが、支持率がアフガン撤退以降、落ち込み、既にレイムダッグの声さえあるバイデン米大統領ではなく、次を見据えた動きが、中国・ロシア・イランなどで始まっている。

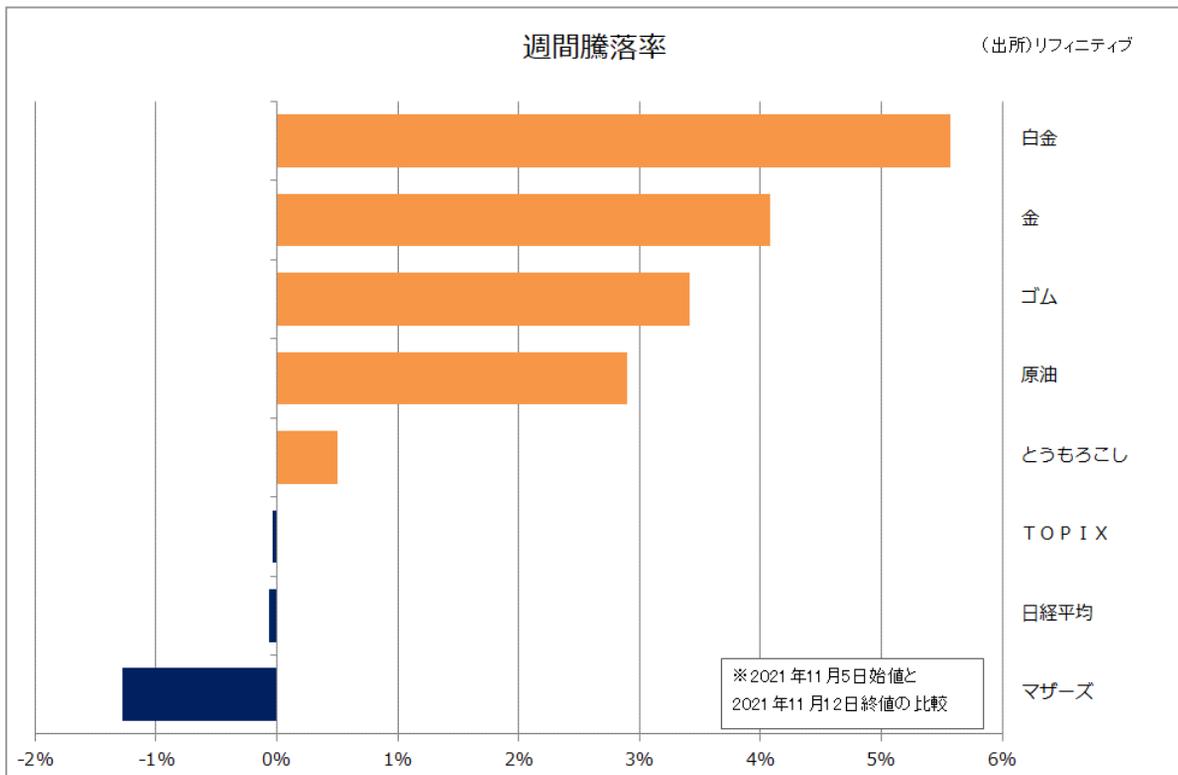
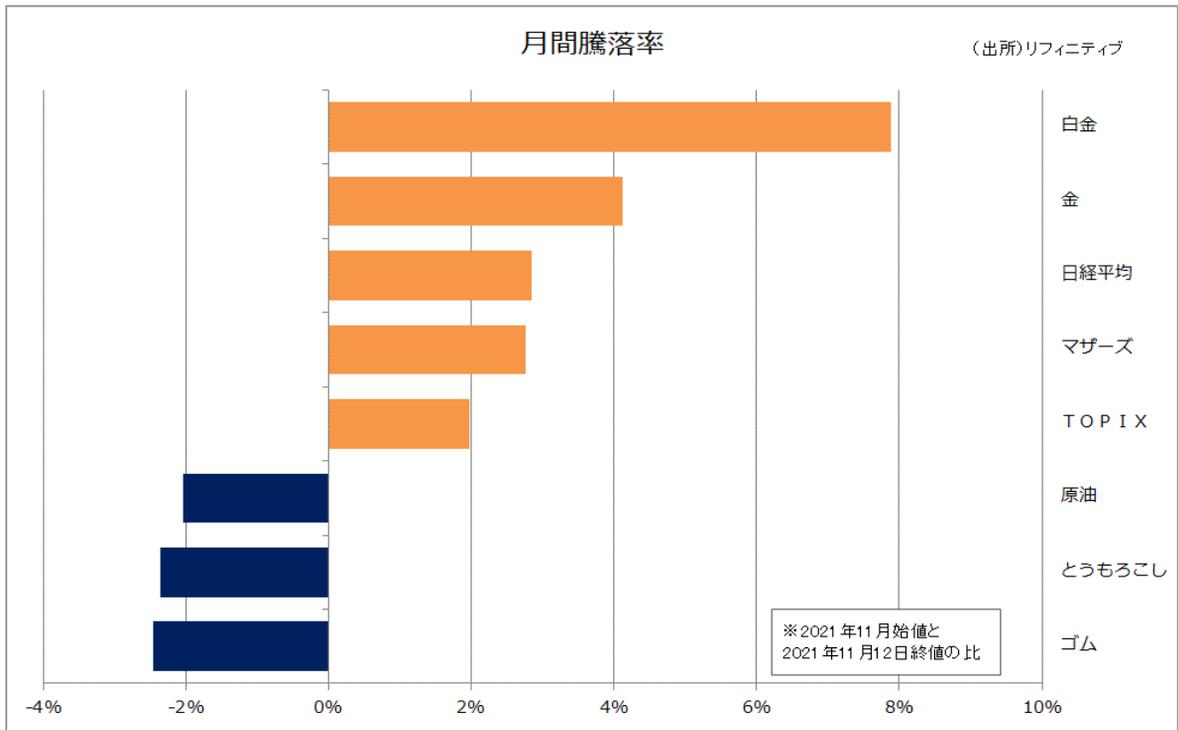
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【週間行事予定(11/15~11/21)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回	事前予想
11月15日(月)	8:50	日本	Q3	国内総生産 (GDP) 1次速報値 (前期比)	0.5	
	8:50	日本	Q3	国内総生産 (GDP) 年率 1次速報値 (前期比)	1.9%	-0.8%
	8:50	日本	Q3	国内総生産 (GDP) 民間最終消費 1次速報値 (前期比)	0.9%	-0.5%
	8:50	日本	Q3	国内総生産 (GDP) 設備投資 1次速報値 (前期比)	2.3%	-0.6%
	8:50	日本	Q3	国内総生産 (GDP) 外需 1次速報値 (前期比)	-0.3%	0.0%
	11:00	中国	10月	固定資産投資 (前年比)	7.3%	6.2%
	11:00	中国	10月	鉱工業生産 (前年比)	3.1%	3.0%
	11:00	中国	10月	小売売上高 (前年比)	4.4%	3.5%
	20:00	ユーロ圏	10月	準備資産総額	1,002.40 (十億)	
11月16日(火)	22:30	米国	11月	NY州製造業業況指数	19.80	20.20
	5:30	米国	前週分	CFTC連玉明細		
	16:00	英国	10月	失業手当受給者数増減	-51.1 (千)	
	16:00	英国	9月	失業率 (ILO 基準)	4.5%	
	16:00	英国	9月	就業者数増減	235 (千)	
	16:00	英国	9月	週間平均賃金 3ヵ月ベース (前年比)	7.2%	
	16:00	英国	9月	平均賃金 除ボーナス	6.0%	
	18:00	---	---	IEA月報		
	19:00	ユーロ圏	Q3	国内総生産 (GDP) 2次速報値 (前期比)	2.2%	2.2%
11月17日(水)	19:00	ユーロ圏	Q3	国内総生産 (GDP) 2次速報値 (前年比)	3.7%	3.7%
	22:30	米国	10月	輸入物価 (前月比)	0.4%	0.9%
	22:30	米国	10月	小売売上高 (前月比)	0.7%	0.7%
	22:30	米国	10月	小売売上高 自動車除く (前月比)	0.8%	0.7%
	22:30	米国	10月	小売業販売高	0.8%	
	23:15	米国	10月	鉱工業生産 (前月比)	-1.3%	0.7%
	23:15	米国	10月	設備稼働率 季調値	75.2%	75.9%
	0:00	米国	9月	企業在庫 (前月比)	0.6%	0.5%
	0:00	米国	11月	NAHB 住宅市場指数	80	80
11月18日(木)	8:50	日本	9月	機械受注 船舶・電力除く 民需 (前月比)	-2.4%	
	8:50	日本	9月	機械受注 船舶・電力除く 民需 (前年比)	17.0%	
	8:50	日本	10月	輸出 (前年比)	13.0%	
	8:50	日本	10月	輸入 (前年比)	38.6%	
	8:50	日本	10月	貿易収支	-622.8 (十億)	
	16:00	英国	10月	消費者物価指数 (CPI) (前月比)	0.3%	
	16:00	英国	10月	消費者物価指数 (CPI) (前年比)	3.1%	
	16:00	英国	10月	小売物価指数 (前月比)	0.4%	
	16:00	英国	10月	小売物価指数 (前年比)	4.9%	
	16:00	英国	10月	小売物価指数 除住宅金利 (前年比)	5.0%	
	16:00	英国	10月	生産者物価投入指数 (PPI) (前月比) 原数値	0.4%	
	16:00	英国	10月	生産者物価投入指数 (PPI) (前年比) 原数値	11.4%	
	16:00	英国	10月	生産者物価産出指数 (PPI) (前月比) 原数値	0.5%	
	16:00	英国	10月	生産者物価産出指数 (PPI) (前年比) 原数値	6.7%	
	16:00	英国	10月	生産者物価指数 (PPI) コア産出指数 (前月比) 原数値	0.5%	
	16:00	英国	10月	生産者物価指数 (PPI) コア産出指数 (前年比) 原数値	5.9%	
	19:00	ユーロ圏	10月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 改定値 (前月比)	0.5%	0.5%
	19:00	ユーロ圏	10月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 改定値 (前年比)	4.1%	4.1%
	19:00	ユーロ圏	10月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) (食品・エネルギー・酒・タバコ除) 改定値 (前月比)	0.3%	
	19:00	ユーロ圏	10月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) (食品・エネルギー・酒・タバコ除) 改定値 (前年比)	2.1%	
	22:30	米国	10月	建設許可件数	1,586 (百万)	1,630 (百万)
22:30	米国	10月	住宅着工件数	1,555 (百万)	1,580 (百万)	
22:30	米国	11月8日, 週次	新規失業保険申請件数	267 (千)		
22:30	米国	11月1日, 週次	継続失業保険受給総数	2,160 (百万)		
22:30	米国	11月	フィラデルフィア連銀 業況指数	23.8	21.5	
11月19日(金)	8:30	日本	10月	全国コア消費者物価指数 (CPI) (前年比)	0.1%	
	8:30	日本	10月	全国消費者物価指数 (CPI) 総合 (前年比)	0.2%	
	9:01	英国	11月	Gfk 消費者信頼感指数	-17	
	16:00	ドイツ	10月	生産者物価指数 (PPI) (前月比)	2.3%	1.2%
	16:00	ドイツ	10月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	14.2%	
	16:00	英国	10月	小売売上高 (前月比)	-0.2%	
	16:00	英国	10月	小売売上高 除燃料 (前月比)	-0.6%	
	16:00	英国	10月	小売売上高 (前年比)	-1.3%	
	16:00	英国	10月	小売売上高 除燃料 (前年比)	-2.6%	
5:30	米国	前週分	CFTC連玉明細			
納会	米国	---	NY原油2021年12月限納会			
11月20日(土)						
11月21日(日)						

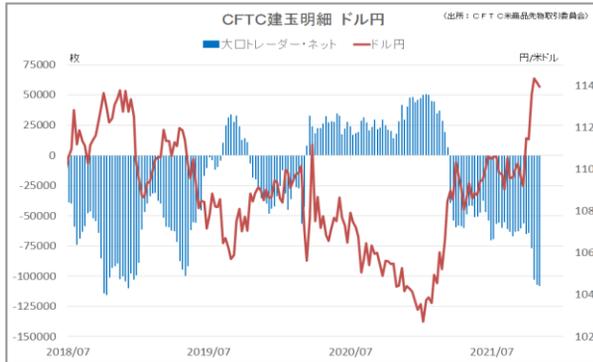
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社 に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【騰落率(月間・週間)】

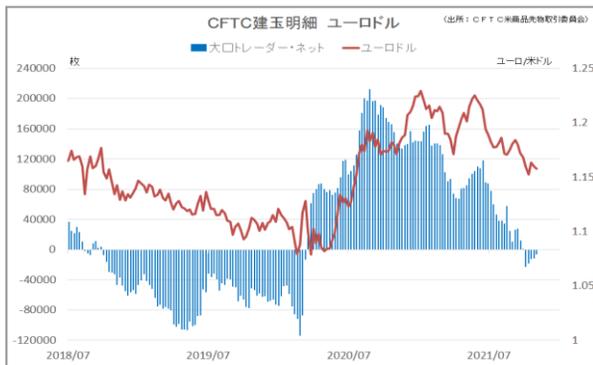


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

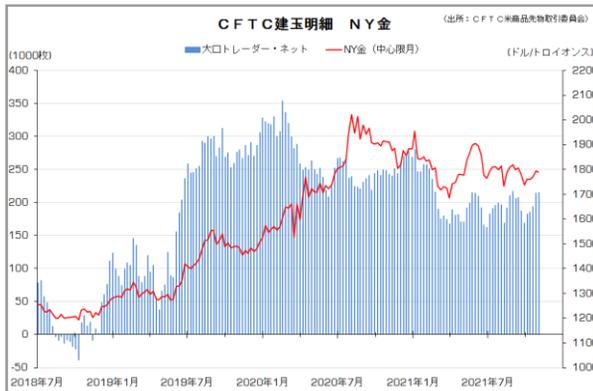
【CFTC建玉明細】 CFTC建玉明細（11/9現在）は、ペテランズデーに伴い15日（月）に延期。  
 グラフ・表は前回発表分です。



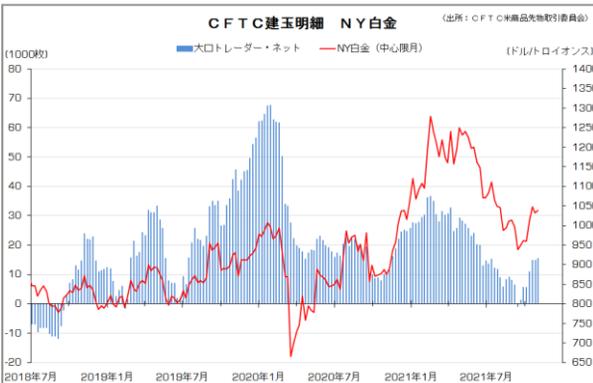
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/5	31,569	95,263	-63,694	111.45
2021/10/12	35,810	112,444	-76,634	113.6
2021/10/19	35,713	138,447	-102,734	114.36
2021/10/26	31,487	138,523	-107,036	114.14
2021/11/2	20,337	127,961	-107,624	113.95
前週比	-11,150	-10,562	-588	-0.19



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/5	196,819	219,153	-22,334	1.1596
2021/10/12	202,512	220,910	-18,398	1.1527
2021/10/19	193,320	205,427	-12,107	1.1632
2021/10/26	196,880	208,136	-11,256	1.1595
2021/11/2	191,496	197,634	-6,138	1.1577
前週比	-5,384	-10,502	5,118	-0.0018



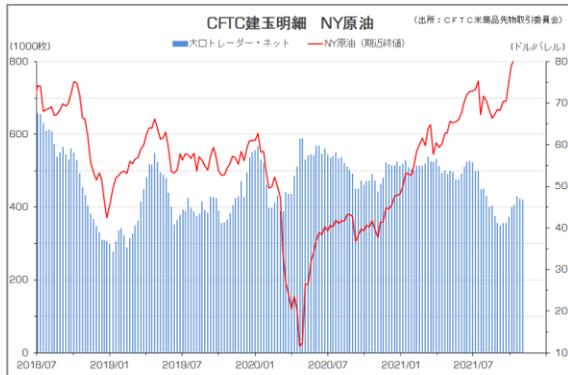
NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/5	295,939	113,357	182,582	1760.9
2021/10/12	298,503	112,964	185,539	1759.3
2021/10/19	299,882	106,533	193,349	1770.5
2021/10/26	313,646	99,086	214,560	1793.4
2021/11/2	311,091	95,962	215,129	1789.4
前週比	-2,555	-3,124	569	-4.0



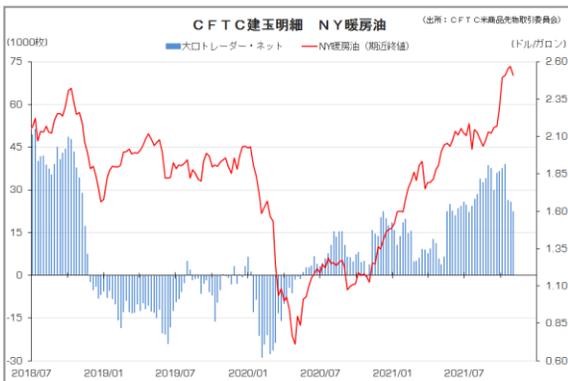
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/5	32,414	26,899	5,515	959.8
2021/10/12	31,711	20,792	10,919	1011.7
2021/10/19	30,917	16,073	14,844	1047.1
2021/10/26	29,445	14,543	14,902	1032.9
2021/11/2	28,870	13,506	15,364	1039.3
前週比	-575	-1,037	462	6.4

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

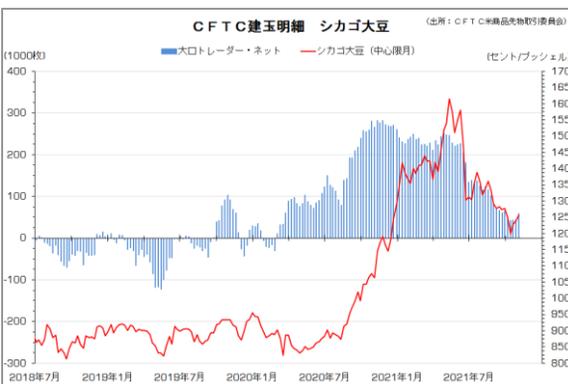
【CFTC建玉明細】 CFTC建玉明細（11/9現在）は、ベテランズデーに伴い15日（月）に延期。  
 グラフ・表は前回発表分です。



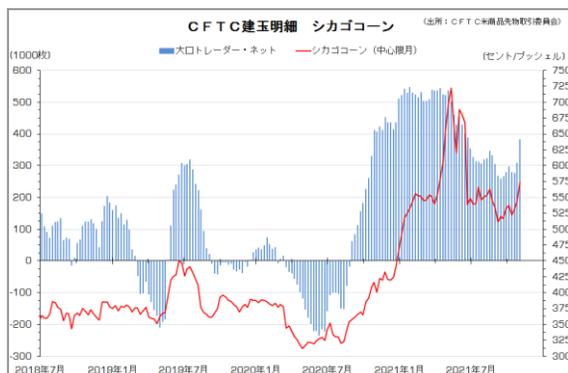
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/5	548,561	150,254	398,307	78.93
2021/10/12	564,001	159,225	404,776	80.64
2021/10/19	565,720	136,126	429,594	82.44
2021/10/26	550,171	126,453	423,718	84.65
2021/11/2	548,631	129,338	419,293	83.91
前週比	-1,540	2,885	-4,425	-0.74



日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/5	72,173	34,625	37,548	2.4936
2021/10/12	72,833	33,696	39,137	2.51
2021/10/19	68,516	42,075	26,441	2.5517
2021/10/26	68,785	42,994	25,791	2.5685
2021/11/2	62,233	39,849	22,384	2.5082
前週比	-6,552	-3,145	-3,407	-0.0603



日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/5	137,547	86,146	51,401	1250.50
2021/10/12	134,258	92,268	41,990	1198.25
2021/10/19	138,576	95,035	43,541	1228.00
2021/10/26	126,049	82,819	43,230	1238.00
2021/11/2	135,938	77,182	58,756	1256.25
前週比	9,889	-5,637	15,526	18.25



日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/5	410,799	113,794	297,005	537.50
2021/10/12	402,726	123,438	279,288	522.50
2021/10/19	390,081	113,052	277,029	530.25
2021/10/26	404,890	97,080	307,810	543.50
2021/11/2	482,734	99,625	383,109	573.00
前週比	77,844	2,545	75,299	29.50

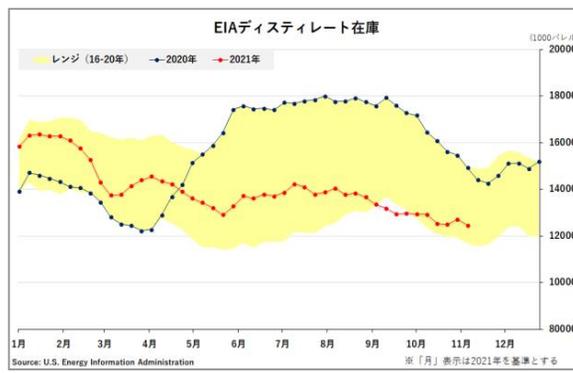
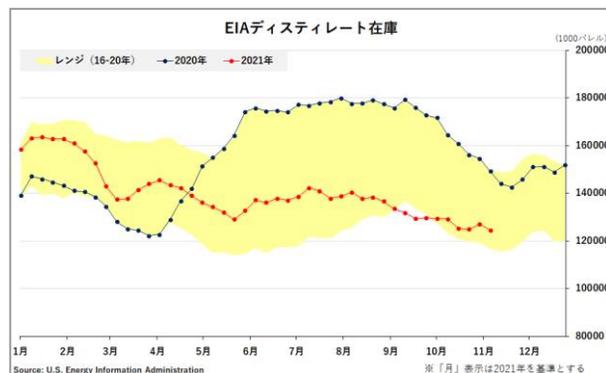
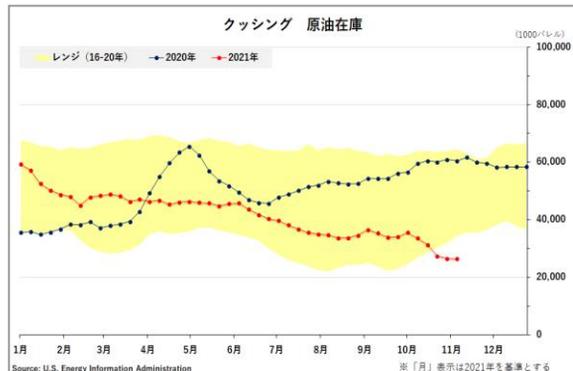
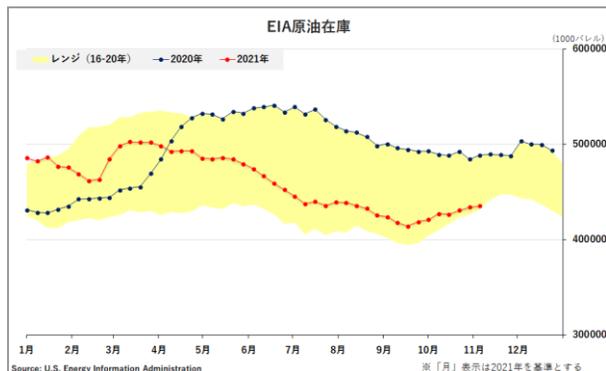
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【金ETF (SPDR)】



日付	金保有高(トン)	前営業日比
2021/11/12	975.99	±0
2021/11/11	975.99	+0.58
2021/11/10	975.41	±0
2021/11/9	975.41	±0
2021/11/8	975.41	±0
2021/11/5	975.41	±0
2021/11/4	975.41	-2.66

## 【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

---

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。